

港頭地区 夜間パト強化

違法駐車「後絶たず」

大阪ト協海コン部会



コンプライアンスの徹底
に今後も力を入れていく

【大阪】大阪府トラック協会の海上コンテナ部会（山口与嗣雄部会長）は、大阪港の港頭地区における違法駐車の一掃に向け、夜間パトロールを強化する。13日の役員会で、山口部会長は「ゲート待ちを目的としたターミナル前面道路へのシャシー切り離しや違法駐車は減っているものの、依然として後を絶たない」と指摘。

その上で、「先日、鶴見警察署は、路上駐車したまま休憩や仮眠をしているドライバの一斉取り締まりを実施した。海コン業界で、ゲート待ち渋滞が大きな負担になっていることは確かだが、だからといって」

「やあないやないか（仕方がないじゃないか）」は到底許されない」と強調。コンプライアンス（法令順守）の徹底に今後も力を入れていく方針を打ち出した。

市港湾局や警察とも連携し、車両放置（車庫法違反）や駐車違反の摘発に協力するとともに、大阪府貨物自動車運送適正化事業実施機

関（松井剛士本部長）と連携し、近畿運輸局への告発も視野に、厳しく対処していく。

駐車車両に貼り付けるチラシには、「告発します」といった強い文言を入れ、法令順守を促す。パトロールの日は事前に公表せず行う。

このほか、不当にコスト

ダウンを図る目的で、一部の事業者が車検切れのシャシーを運行するケースが散見されることから、パトロールでは検査証票にも目を光らせる。更に、部会員にも部会ニュースを通じて「うっかり失効」のないよう注意を呼び掛けている。

（小菓史和）

大阪港の車両滞留解消

市港湾局に粘り強く交渉

【大阪】大阪府トラック協会の海上コンテナ部会は、大阪港の各コンテナヤードでのゲート待ち車両の

滞留解消に向け、市港湾局の担当者と定期的に面談を続けていく。13日開いた役員会で、山口与嗣雄部会長

は「ストックヤードの設置といった滞留解消策の実現に向け、粘り強く交渉を続

けることが大切」と述べた。従来、神戸港で採用されたゲート待ち車両の滞留緩和に成果を上げているストックヤードを大阪港でも設置するよう市港湾局に働き掛けてきた。しかし、港湾局側は「用地が確保できない」ことなどを理由に結論を先送りしてきた。

8月に行った面談では、

用地に比較的金銭的余裕のある夢洲への設置について交渉したものの、港湾局側は「万博誘致に伴い、夢洲は候補地となっており、現時点で結論を出すことは難しい」との考えを示した。

13日の役員会では、この経緯を踏まえ、「（滞

留解消に向け）国会議員や国土交通省に協力を求めると同時に、地元での交渉は根気よく、頻りに続けていくことが重要」との声が大勢を占めた。一方で、「大阪ト協本部から、大阪港運協会（溝江輝美会長）に対し、滞留解消への協力要請文を出せないか」といった意見も出された。

ゲート待ち車両の滞留は、ドライバの長時間労働の原因となるだけでなく、「荷主都合による30分以上の待機」にも該当することから、今後あらゆる機会を捉え、解消に向けた要望を続けていく方針を確認した。

（小菓史和）